

りんご生育情報(5月号)

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-8603

令和5年5月11日発行

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 「ふじ」の生育状況

4月の気温は、21日までは平年より高い日が多く、**開花始期は平年より10日早くなり**ました。その後、4月27日にかけて気温が平年より低い日が続く、生育の進みがやや緩やかになり、**満開期～落花期は平年より8日早くなり**ました(表1、図1)。

また、**4月4日、25日に降霜**があり、園地によっては凍霜害による花芽の障害がみられています。

表1 令和5年の生育状況結果(調査地: 東和町錦織)

	発芽期	展葉期	開花始期	満開期	落花期
本年	3月23日	3月31日	4月20日	4月27日	5月3日
前年	4月3日	4月10日	4月26日	5月3日	5月8日
平年	4月3日	4月12日	4月30日	5月5日	5月11日
前年差(日)	-11	-10	-6	-6	-5
平年差(日)	-11	-12	-10	-8	-8

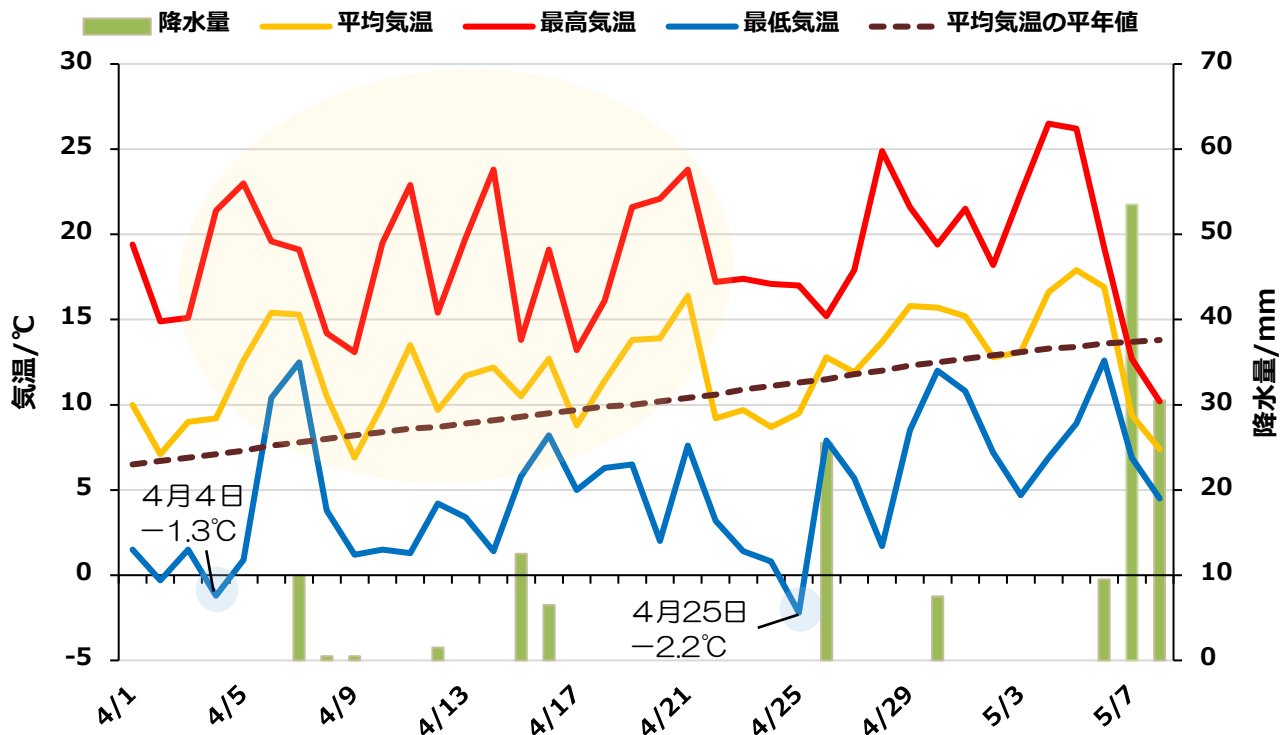


図1 4月1日～5月8日の気温・降水量の推移(アメダス地点: 米山)





2. 管内の凍霜害の状況

4月25日に最低気温が-2.2℃を観測（米山アメダス観測値）しました。園地の条件や品種、樹勢等によって被害の発生程度は異なりますが、特に中田町の一部の園地で**中心果の結実率が低く、側果についても落花が確認**されています。がく立ち期になると結実状況がはっきりと分かってきますので、自身の園地を確認し、結実状況を把握しましょう。



被害花@中田町
(令和5年4月27日撮影)



被害花そのの結実状況@中田町
(令和5年5月8日撮影)

3. 今後の管理について ～ 摘果 ～

発芽から開花までの生育には貯蔵養分が使われますので、結実が多ければその分貯蔵養分が多く消費されます。果実の細胞分裂は、開花4週間後頃には停止し、それ以降の果実肥大は主に細胞の肥大によりますので、早期に摘果することで大玉果が期待できます。

摘果の方法 (2~3回に分けて行う)

- 1回目…がく立ちを認めてから1花そう1果（中心果を残す）とします。
- 2回目…不良果や混んでいる部分のものを除き、適正着果量よりやや多めに残します。
- 3回目…果形不良の果実、病害虫の被害花などを随時摘果し適正着果量にします。

ポイント

- 枝の側面についている充実した果そうの中心果を残します。中心果は側果に比べ一般的にツルサビが少なく、果形も良好で生理的落果が少ないです。主要品種の適正な着果程度は表2のとおりです。
- 摘果を強く行い1果当たりの葉数が多くなると、収量が減少するだけでなく、ビターピット、ジョナサンスポット等の生理障害の発生が多くなる傾向があります。
- 強い枝を下げたい場合は普通より多めにならせ、下げたくない枝の場合は、着果量を少なくします。

表2 標準的な着果程度

品 種	摘果の強さ
紅玉	3頂芽に1果
つがる、 ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ、王林、シナノゴールド、シナノスイート、ぐんま名月 など	4頂芽に1果

凍霜害被害園での摘果方法

凍霜害の被害に遭った園地では、中心花による適正な着果量の確保が困難となる可能性があります。その場合は、側果にも結実させ、側果の被害もひどい場合には、腋花芽であっても着果させ、樹勢のバランスを崩さないようにしましょう。また、摘果剤の使用については、着果状況を確認し、ほ場や品種ごとに使用するなど、状況に応じて判断しましょう。

